

「からまつ」のようにきびしい自然に耐え、どっしりと大地に根をおろし、すくすくと育つ西春別小学校の子ども



別海町立西春別小学校 学校だより
からまつ No. 12

令和4年2月28日発行

校長 太田 等

学校の教育目標

知 よく考え表現する子
徳 心豊かで思いやりのある子
体 進んでやりぬたくましい子

北京オリンピックからの学び

太田 等

今月3日。スケート記録会が開催されました。晴天無風という最高のコンディションに恵まれ、子ども達はこれまでにない記録を出すなど、意気軒昂に取り組んでいました。また、スケート学習は短い期間ではありましたが、連日の晴天にも恵まれ、子ども達はスケートを十分に楽しむことができたのではないかと思います。これもリンク造りとともに準備など、ご協力いただいた保護者の皆様のお陰であると感謝しております。誠に有難うございました。

4日から開催された北京オリンピックが20日で閉幕しました。本町からは、森重 航選手、新濱 立也選手、郷 亜里砂選手がスピードスケートで出場するなど、連日氷雪を溶かすほどの熱戦を展開し、感動の渦が巻き起こりました。

大会では、メダルが懸かった大一番でも、あえて最高難度の技にチャレンジする等の数々の名場面があり、その挑戦に多くの方々が心を揺さぶられたのではないかと思います。今回も東京オリンピック同様、選手達から学ぶべき点がありました。

41歳を過ぎてから初のメダリストに輝いたアルペン男子滑降のヨアン・クラレイ選手（フランス）には、次のエピソードがあったそうです。

「私の母は、私がすること全て時間がかかったと言いました……歩くこと、話すこと。私のスポーツのキャリアも、全く同じでした。」

この母親の言葉から、幼少期からの人とは違う様々な困難が想像できます。人はとかく、他者と比べ「普通と違う」「皆と同じようにできない」等、批判しがちです。

あるテレビ番組では、そういった周囲の環境で育った子どもが思春期になった時、「なぜ自分はこうなんだ」「どうして自分は皆と同じようにできないんだ」と、自暴自棄になり、その対応に「どうしていいのかわらない」と周囲が困り果てる場面がありました。

しかし、この母親の言葉からは、たとえ皆と同じ行動ができなかったとしても追い込んだりせず、その才能の開花をゆっくりと待ち、選手と苦楽を共にして歩んだ姿が目に見えます。

～ みんな違って みんないい ～ と金子みすゞが詠ったように、皆と同じような人などは1人としていなく、それぞれに長所もあれば短所があり、運動神経の良い人もいれば、絵を描くことが得意な人もいます。それぞれの個性を認め合い、補い合えば、皆が自分らしさを発揮し笑顔になります。

24日に全教職員で根室教育局によるリモート研修「道徳科の特質を踏まえた授業改善」を受講しました。道徳科の目標は「～自己を見つめ、物事を（広い視野から）多面的・多角的に考え、自己の（人間としての）生き方についての考えを深める学習を通して、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる」です。

カナダの精神科医エリック・バーンの名言に「他人と過去は変えられないが、自分と未来は変えられる」とあります。これは「こうなってもらいたい」「こうしてほしい」という相手に対する自分の願望を要求するだけでは他人は変えられないということであり、自分が相手の幸せと成長を考えて自分の言動を変えれば、今の苦悩は喜びになるということです。

これからの時代、相手の成長と幸せを考えるという道徳性を形成し、自他共に幸福感を増幅する人間性豊かな生き方がより大切になっていきます。

来月17日は、6年生8名が本校を旅立つ卒業式です。残された日々を「主体的な判断の下に行動し、自立した人間として他者と共によりよく生きる力」を育てるように職員一同尽力して参ります。

